

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

【 教 務 部 】

岐阜県立加納高等学校

学校番号 5

1 学校教育目標	「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。
2 現状の分析	○保護者の評価「学校の授業は有益である」、「子どもの能力にあった授業が行われている」が有効回答の中での割合は、いずれも90%前後で、良い評価を受けているが、若干後者の方が、例年低く出ているのは、進路実現のための進捗確保のためと思われる。 ○生徒の評価「専門的知識が豊富であり、授業内容に信頼できる。」は安定した評価である。 ○新学習指導要領のねらいの一つである「言語活動」を取り入れた授業について、各教科で検討され、組み入れられるところで実践されている。 ▲授業開始時に「本時の目標」を提示し、生徒が目的意識をもって授業に取り組むことができる態勢を作り、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他教科の教員が研究授業を参観できるように時間割を調整する。</li> <li>● 「本時の目標」の定着を図り、生徒が目的意識をもって授業に臨む習慣を身に付けさせる。</li> <li>● 教科会の充実を図り、「言語活動」及び「アクティブラーニング」を取り入れた授業研究を行う。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇授業改善の一層の推進を図る。…力のつく授業づくりを目指す。また、生徒が自ら課題を発見し自ら考え解決していく態度を身につけることを目指す。 ・新学習指導要領の改訂の理念や趣旨を理解し、「言語活動」を取り入れた授業について各教科で研究する。 ・教科及び教科の枠を超えたグループ編成による授業研究会を実施し、指導方法等について情報交換する。 ・公開授業月間において、全職員でアクティブラーニング型の授業を実践する。 ・業務の精選を図り、授業時間数と教員が教材研究に費やせるような時間を確保する。また、授業で学力がつくよう、大学入試問題の分析と研究を行う。

## 年 度 目 標

## 年 度 末 評 価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 評価		
		※アンケート (保護者・生徒)	指標	前年					結果	
教務部 ◇学習指導	(1) 生徒による授業評価の分析	生	専門的知識が豊富であり、授業内容は、信頼できる。	90%	88%	88%	各教科教材研究を深め、それを授業で実践している。	A	○授業内容で、意見交換をし、授業力向上に努めている。 ○生徒による授業評価は5段階の平均は4.3で微増であった。 ▲進捗確保と考える時間の確保のバランスで、進捗確保が優先されている。	B
	(2) 公開授業・研究授業参観及び授業研究会	生	授業の教え方や説明が分かりやすい。	90%	83%	84%	公開授業月間等で、教科を超えての意見交流ができています。	B		
	(3) 教育課程講習会報告会	生	本校では、生徒にとって有益であり力になる授業が展開されている。	90%	87%	87%	生徒による授業評価を全員行い、情報を公開し、各教科で授業研鑽をしている。	A		
	(4) 新書読解、調査・研究・発表、テーマ研究・発表	保	本校では、生徒にとって有益であり力になる授業が展開されている。	90%	88%	89%	生徒による授業評価を全員行い、情報を公開し、各教科で授業研鑽をしている。	A		

## II 学校関係者評価

実施日：平成31年2月13日

どの生徒も授業を大切にしている。疑問をもったときは、すぐに質問をして解決しようとしたり、熱心にポイントをメモしたり、授業を有効に活用している姿がみられた。また、音楽科・美術科においては、個に応じた専門性を高める授業を展開され、きめ細かく指導されていて、充実している。

## 12 来年度に向けての改善方策

・授業内容の精選を図り、進捗を確保しながらも、生徒自身が考えられる、あるいは教えあえる時間を授業中に与えられるような授業展開を心がける。

I 自己評価 【 総 務 部 】

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

2 現状の分析	○学校行事について、生徒・保護者ともに協力的で、各行事の運営を効率よくかつ厳粛に進めることができた。 ○会議資料の電子化が徹底されており、職員会議の紙媒体資料を減らすことができ、会議も効率よく進められた。
3 学校の抱える課題	・分掌、教科、学年、普通科、音楽科、美術科との連携を図り職員の意志疎通を図る。 ・会議資料電子化に伴い、会議の効率化を図り、データをより利用しやすい形式になった反面、資料の確認が不十分な場合もある。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 式典・全校集会を通して、基本的な倫理観や秩序を重んじる態度を育成する。 (2) ゆめ会議加納（学校評議員会）を通して、本校の教育活動の理解を図り、地域の人たちの意見や関心の高い事項を知って学校経営に生かす。 (3) 国際交流の機会を生かして、生徒一人一人の視野を広げ、平和的で民主的な社会を実現する人材となるよう意識を高める。 (4) 日本学生支援機構の奨学金制度に加えて、地域や各種団体の奨学金制度の利用推進を図る。 (5) 選挙権年齢が18歳以上となり、国家社会の有為な形成者をめざす公教育の一貫として主権者教育を地歴公民科と連携して推進する。 (6) 会議資料および職員必携の電子化を進め、資料をより利用しやすいものにする。

年 度 目 標

年 度 末 評 価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート（保護者・生徒・職員）			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
			指標	前年	結果				
総務部	(1) 早期の準備と、礼法指導等を通して秩序ある式の推進 (2) 学校見学等で、評議員の方に本校の教育理念の理解を図る (3) データアップの早期化かつ期限厳守を図り、会議前に資料を検討できるようにする。	保 奨学金等の情報の周知度	*	*	*	奨学金の情報は速やかにHPで案内をし、周知することができた。	A	○奨学金の情報についてはHPの活用により、保護者の理解を得られた。また、個人情報管理も徹底できた。 ○夢会議かろう（学校評議員会）での学校見学を通して、本校の教育活動について、より深く理解を図ることができた。 ▲例年の行事・会議を踏襲していることが多く、効率化、スリム化が図れていない。	B
		教 電子化された資料の定着度	90%	97%	*	資料の電子化はほぼできており継続していきたい。	A		
		教 式典・行事のアンケート結果	*	*	*	入学式・始業式・全校集会の式典行事は、職員・生徒の協力のもと、落ち着いた雰囲気が進められた。	B		

II 学校関係者評価

実施日：平成31年2月13日

各行事毎にアンケートをとられ、行事の精選や、先生方の生徒を指導する時間の確保に努められている。今後も、アンケートを有効に活用し行事のスリム化に尽力してほしい。

12 来年度に向けての改善方策

・各行事等のアンケート結果や提案を次年度に生かし、スリム化できるところを少しでも見出し、効率よく進め、生徒の指導に充てられるようにする。

I 自己評価

【 進路指導部 】

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

1 学校教育目標	「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。
2 現状の分析	▲週末2日間で学習時間(10時間)の確保を図り、週あたりの学習時間21時間達成率の向上を図る。 ▲進路探求学習を深める機会として、公開講座等の活用を図る。 ▲基礎事項理解度に焦点をあてた模試結果分析を行い、基礎学力の充実を図る。 ○入試対策期間における個別指導を、全校体制で取り組むことが出来た。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上</li> <li>キャリア教育の推進</li> <li>2020年度入試改革に向けた取り組み</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇知的好奇心を発掘し、主体的な学習姿勢を育み、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るとともに、模試等の結果分析を授業改善に結び付ける。 ◇学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させることにより、新たな学習課題を発見させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする。 ◇「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を図る。

年度目標

年度末(途中)評価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果
進路指導部 ◇進路指導	(1) 外部講師による講演会 (2) 学習記録表の活用 (3) 試験を活用した長・短期の到達目標の設定 ※(2)(3)を蓄積して、ポートフォリオ作成(学修の記録) ⇒ PDCA サイクルの確立 (4) 採点を通じた模試分析 (5) 「総合的な学習の時間」の活用 ※オープンキャンパスや公開講座等、高大連携事業への参加 (6) 汎用的能力測定教材(GPS Academic等)の活用	生	10月の週あたりの学習時間21時間達成率	1年	35%	11%	13.4%	C	B
				2年	40%	37%	19.3%		
				3年	90%	94%	87.1%		
		保	学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。		90%	86%	89%	B	
			学校は生徒に様々な(適した)進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。		90%	81%	82%		
			◇国公立大現役合格者(H30入試)		170名	151名	142名	A	
	◇志望上位国公立4大学現役合格者		80名	76名	54名				
	◇国公立難関大現役合格者		20名	15名	21名				

II 学校関係者評価

実施日：平成31年2月13日

12 来年度に向けての改善方策

生徒の進路希望実現に向けて、様々なサポート体制が確立しており有効に機能している。また、各学年それぞれにキャリア目標を定め、適切なプログラム(FID)が計画されており、自己他者理解・社会理解を段階的に深めている。その中で、進学指導も充実している。

- 探究学習への取り組み。(FID、公開講座等の活用)
- システム手帳を活用して、PDCAサイクルの確立を図る。(定期考査等の振り返り)

## I 自己評価

## 【 生徒指導部 】

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

1 学校教育目標	<p>「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。</li> <li>2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。</li> <li>3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。</li> </ol>
2 現状の分析	<p>○基本的な生活習慣の確立は、保護者との連携も図られ、概ね良好である。</p> <p>○遅刻数については、不登校生徒の増加などの要因で、数値上は改善されていないが、5分前登校については、定着されつつある。</p> <p>▲交通事故件数は、昨年度より増加した。(14件→21件)</p> <p>▲5分前登校の徹底</p> <p>▲一層の交通マナー啓発活動と保護者を含めた送迎マナーの徹底</p> <p>▲情報モラルについては、やや改善された。一方、スマホ依存が疑われる生徒が増加傾向にある。</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携が図られ、充実した教育相談活動ができた。</p> <p>○いじめ事案に対して、迅速な対応ができた。(認知件数は横ばいであった)</p> <p>▲多様化する生徒への対応</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身だしなみ指導(「フォーマルウィーク」など)の継続</li> <li>● 学校の教育活動全体を通じた交通安全啓発活動を推進する。目標は交通事故年間20件以下。</li> <li>● 遅刻を減らすために余裕を持った登校と「8時25分全員着席」を学年会・HR担任及び保護者とも協力して徹底する。(基本的な生活習慣の確立と遅刻防止について、家庭との連携を強化する。)</li> <li>● ケータイ・スマホの使用方法等について生徒に考えさせ、よりよい使用法を身に付けさせる。(安全利用宣言の見直しの検討)</li> <li>● 教育相談活動のさらなる充実を図る。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇基本的な生活習慣とモラル・マナーの定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ、8時25分登校完了(遅刻をしない)、挨拶、安全マナーなどを身に付けた品位と規律ある生徒の育成を目指す。</li> </ul> <p>◇教育相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する生徒への対応について、生徒理解に努め、相談スキルの向上を図る。</li> </ul>

年 度 目 標						年 度 末 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート (保護者・生徒・教員)		指標	前年					結果
生徒指導部 ◇生活指導 ◇教育相談 ◇人権教育	(1) 運動部を核としたMSリーダーズの編成 (2) 全職員による指導体制の確立 (3) 全職員による遅刻数減少の取組及び登校時の声かけ指導 (4) P T Aと連携した交通安全運動 (5) 職員研修会(発達障害に関するもの) (6) 人権教育の推進	保	高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導をおこなっている。	90%	86%	86%	概ね良好な状態である。	A	○基本的な生活習慣の確立は、保護者との連携も図られ、概ね良好である。 ○遅刻数については、不登校生徒の増加などの要因で、数値上は改善されていないが、5分前登校については、定着されつつある。 ○交通事故件数は、昨年並みである。 ▲一層の交通ルール・マナー啓発活動 ○スクールカウンセラーとの連携が図られ、充実した教育相談活動ができた。 ○いじめの疑われる事案に対して迅速な対応ができた。(認知件数は横ばい) ▲多様化する生徒への対応	
			生徒の遅刻数	*	1506 (472)	504 (8月末)				欠席数・遅刻数は共に若干増加傾向である。 明るく挨拶が増えてきている。 スマホの適切な使用を心掛けさせたい。
		保	学校は、挨拶や遅刻防止など、基本生活習慣の育成指導を保護者と十分連携をとって進めている。	85%	82%	81%	交通事故は昨年並み。 歩行者のイヤホン使用、校内外での歩きスマホなどを見かける。	B		
			交通事故件数	*	21 (10)	22 (12月末)				担任・相談係を中心に、細やかな教育相談活動を行っている。 迷惑調査や教育相談旬間をもとにいじめの早期発見に努めている。
		保	学校は、子どもの安全面や衛生面に配慮し、交通安全、健康管理等の指導を行っている	90%	84%	85%	様々な折に人権尊重の意識の醸成に努めている。	A		
			交通安全啓発活動の実施	*	3回	3回				
		生	子どもの悩みについて担任以外の相談窓口を設け、その利用について十分知らせている。	70%	66%	70%				
			悩みごとなどに親切に対応してくれる先生が多い	80%	70%	71%				
生	いじめや差別のない学校である。	100%	71%	72%						

## II 学校関係者評価

実施日：平成31年2月13日

規範意識が確立しており、TPOをわきまえた行動ができている。地域の方からも交通マナーなど、おおむね良い評価を受けている。但し、軽微とは言え年間数件の交通事故が起きているので、登下校を含め、普段から時間的に余裕をもって行動するよう指導してほしい。

## 12 来年度に向けての改善方策

- ・交通講話や情報モラル講話の内容を工夫したり、生徒指導だよりを利用したりして、生徒意識向上を図る。
- ・多様化する生徒への対応について、研修を深めることによって、生徒理解に努め、相談スキルの向上を図る。

I 自己評価

【 特活指導部 】

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

1 学校教育目標	<p>「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。</li> <li>濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。</li> <li>品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。</li> </ol>
2 現状の分析	<p>○ここ数年、部活動の現状に合う様に内規変更をしてきたが、それが定着してきた。</p> <p>○年2回の保育園訪問、加納西小への算数ボランティア、街頭募金や高橋尚子マラソン応援ボランティア等、生徒会主催のボランティアが定着し、多くの生徒が参加した。地域の評判も良く、継続して行いたい。</p> <p>○部活動月間計画書と報告書の提出がスムーズに行われるようになった。</p> <p>▲3年前の球技大会・スポーツ大会の服装の見直しにより、ほとんどの生徒がルールを守って活動するようになったが、勝手な解釈で服装違反をする生徒もおり、いまひとつ徹底できていない現状がある。生徒指導・体育科と連携しながら指導する必要がある。また、クラスTシャツの高額化も懸念される。本来の学校行事の意義や目的について生徒と共に考えていく必要がある。</p> <p>▲クラス増による空き教室不足により文化系部活動の活動場所が確保できない。</p> <p>▲部活動消耗品費が膨らんでいる。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>白梅祭における発表場所の再考と白梅祭期間中の暑さ対策。</li> <li>普通科・音楽科・美術科の特徴を生かした学校行事の運営。</li> <li>準備期間・練習時間(球技大会)の明確化(オンとオフの切り換えの徹底)。</li> <li>生徒会費と部活動後援会費の公正な運用。</li> <li>多くの生徒が参加できるボランティア活動の立案。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>加納高生としての所属意識の高揚と安全な行事運営。</li> <li>生徒会費と部活動後援会費の適切な運用法の検討</li> <li>様々な行事を通して、自主性を育み、共に向き合う力の育成をはかる。</li> </ul>

年 度 目 標			年 度 末 評 価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
		※アンケート(保護者・生徒)	指標	前年				
特活指導部 ◇特活指導	(1) テーマ性の追求と質の向上 【学校行事】	本校の学校行事は、充実している	90%	87%	87%	B	年々、リーダー性のある生徒が減っていく中で、何とか行事が消化できているので、本来は力のある生徒集団である。生徒の活躍場面を作り、リーダー育成に力を入れたい。文化祭では、時期を含めた暑さの問題、発表場所の問題、準備期間の問題等、長年にわたる課題が引き続き残る。今後も先生方の協力を仰ぎたい。	B
	(2) 生徒の安全を考えた、活動しやすい学校環境の整備 【生徒会】【学校行事】	本校は、部活動が活発である	85%	80%	78%			
	(3) 保育園との交流(夏/冬)、外部ボランティア活動への参加 【ボランティア】	本校は、生徒会活動が活発である	70%	66%	64%			
	(4) 生徒会の全校に向けての新提案 【生徒会】	週一回の執行部会における意見交換	*	*	*	A		
	(5) 部活動に関する書式の見直し 【部活動】	ボランティア参加者のアンケートと保育園側の意見を聞く	*	*	*			
			4月当初の部顧問会議で共通理解を図る	*	*	*		

## II 学校関係者評価

実施日：平成31年2月13日

SHOW文化祭を見学させていただき、どの発表もレベルの高さを感じた。一般教科の学習だけでなく、実技系の授業や部活動などの普段の活動が、しっかり取り組まれていることが伺われる。また、地域の小学校に、普通科の生徒が出向き算数を教えたり、音楽科の生徒が、地域の保育園・小学校・老人ホームなどで演奏を披露することで、地域の方とのつながりもでき、参加した生徒にとっても社会性を養うことができ、良い活動である。是非継続してほしい。

## 12 来年度に向けての改善方策

- ・白梅祭準備期間（リハーサル日程）の各団体の活動と部活動との調整をさらに見直す。
- ・休日における白梅祭のHR活動について、教員の処遇を管理職と相談できないか。（働き方改革の観点からも勤務日・勤務時間外の労働についての線引きは必要）
- ・4月の部顧問会議の前に事務部と綿密な打合せをし、年度途中の変更をなくす。

I 自己評価

【保健厚生部】

1 学校教育目標	「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。
2 現状の分析	▲健康診断の結果をもとに自らの生活・健康管理を行うことができる。 ○「警報訓練」をきっかけに学校生活における防災(減災)について考える機会を増やすことができた。 ▲生徒の防災意識は向上してきたので、家庭・地域の連携のため活動を増やす。 ○環境整備を目的とした大掃除を毎月1回は実施出来るよう年間計画に位置づけた。
3 学校の抱える課題	●健康診断の事後指導への意識をさらに高める。 ●生徒総務委員を中心に防災意識を高める活動を実施し、防災・備蓄品の整備をさらに進める。 ●校内各箇所の清掃ポイント明確にし、不用品の処分など周辺を整理して安全な環境を保つ。
4 今年度の具体的な重点目標	◇健康や安全を客観的に評価し改善する。 ◇事故や災害などに対する、防災意識を高める。 ◇常に校内美化の意識を持ち、清掃等の徹底と生活環境の整備をする。

年度目標			年度末(途中)評価							
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
保健厚生部	(1) 自らの健康・安全への意識を高める。	保	生徒の安全面や衛生面に考慮し、交通事故や健康管理などの指導をしている。	90%	84%	85%	定期健康診断を基にした健康指導(受診勧告等)	B	▲健康診断で校医から助言を受けた生徒が事後受診など健康管理への意識を高めるような指導を工夫する。 ○在校時の地震への対応については意識が高くなってきた。 ・その他の非常変災時への対応ができるようにする。 ▲全校生徒が校内をきれいに保つ意識を持てるようにする。	B
	(2) 全職員で安全点検し、危険箇所等の早期発見と改善への対応。		生徒に地震や台風の場合の対応マニュアルをはっきり示している	90%	95%	94%	非常変災時の対応について学校と家庭の連携。	B		
	(3) 校内での地震対応を生徒に周知し、訓練を繰り返し実施する	時間や場所によらない警報訓練による校内の危険や避難等への対応を周知				毎月のシェークアウト訓練が定着した。危険箇所の改善。	A			
	(4) 変災時に対する備蓄の検討。	生徒用備蓄および緊急対応備品を確認								
		生	本校は、清掃が行き届いており校内がきれいである。	70%	62%		大掃除では清掃のポイントの明示。	B		

II 学校関係者評価

実施日：平成31年3月13日

非常変災時にそなえて、定期的に訓練されているが、生徒の意識もそれに対して備えるようになるので、必要なことである。特に近年、自然災害が各地で発生しており、この地域においても起こりうることなので、いざというときに的確にかつリーダーとして行動できるように指導していたらとありがたい。

12 来年度に向けての改善方策

- ・健康管理の意識向上と、自己管理ができる考えを身につける
- ・非常変災時の適切な対応ができるようにする
- ・全校生徒が、整理整頓を心がけ、清掃をしっかりできる意識づくりを行う



I 自己評価

【 図書部 】

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

1 学校教育目標	「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。
2 現状の分析	○生徒が自分たちでアイデアを出し合い、白梅祭や読書旬間などに意欲的に取り組んだ。 ○朝の読書は一定の成果が得られた。 ○図書室の利用者数は増加傾向にある。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度に引き続き、教科・分掌・学年との連携を図る。</li> <li>生徒が少しでも本に興味を持てるように、広報活動をより一層、積極的に行う。</li> <li>読書指導法の研究を行う。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇自ら本を手に取り、意欲的に読書活動を行う生徒を育成する。 ・各教科、分掌、学年と連携を図る。 ・委員会活動の活性化を図る。

年度目標			年度末評価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果
図書部	(1) 朝の読書や「総合的な学習の時間」を効果的に利用する。 (2) 年間を通した委員会活動の計画 (3) 学級文庫の設置をする。	生	朝読書が有意義であった	90%	93%	97%	B	○学級文庫の全クラスへの設置を行った。本が身近にあることで気軽に本を手取るようになった生徒も多く、好評であった。 ○一人あたりの貸出冊数は3.42冊(4~1月)であった。	A
		生	生徒は、学習習慣とともに読書習慣がついている。 (不読書率)	50%		55%			
			図書貸出冊数(4~1月まで)		4026冊	3995冊			
			委員会活動は生徒の自主的な活動になっていたか。						
						A			

II 学校関係者評価

実施日：平成31年2月13日

若者の読書離れが問題になっている中、加納高校では、委員会の広報活動として全校生徒に本の紹介をしたり、年間を通して定期的に読書週間(朝読書)を実施されたりして、読書意欲を引き出す努力をされている。読書は、著者の価値観に触れることで考え方の視野を広め、また、情操教育に良い影響を与えると思うので、少しでも読書離れがなくなればと思う。

12 来年度に向けての改善方策

・生徒の読書意欲を喚起出来るような展示の工夫や朝読書、出張図書館などを利用して貸出冊数も伸ばす。  
また、委員会活動が積極的に行われているので、図書委員を中心に広報活動に力を入れる。